

■横井也有 俳人。御三家筆頭尾張藩の重職をそつなく務め、退隠して、悠々自適の後半生を全うした“人生の達人”。

よこいやゆう

赤穂浪士討入1702＝ 尾張国名古屋で、藩の名門で重臣横井時衡の長男に生まれる。

徳川綱吉没・1709＝ 7歳：

冥途の飛脚・1711＝ 9歳：

徳川吉宗将軍1716＝14歳：自学自習で俳諧をはじめ、

祖父が太田巴静の父貞静と同じ季吟門であった関係上、祖父の指導を得てさらに巴静と交流していく。

洋書輸入解禁1720＝18歳：

多趣味多芸で、平家琵琶・謡曲・書画・詩歌・狂歌にも通曉し、武道にも精通しており、謙信流の兵法にまでおよんでいたこともあって、

・・・ 1727＝25歳：父が死去し、家督知行1000石を相続して普請組寄合となるも、早くも、安静に日を送る境涯に憧れ始め、

梅岩心学始・1729＝27歳：御用人に進んだ直後、

・・・ 1730＝28歳：この年、徳川宗春が尾張藩主になると、

・・・ 1731＝29歳：幕府の制を破って諸所に遊郭を新設、歌舞伎芝居の興行も許すなどして、一気に繁栄するようになり、

享保大飢饉・1732＝30歳：将軍吉宗の詰問を受けて、後退はするものの、なお歓楽の雰囲気は保たれていたが、

・・・ 1736＝34歳：自らも、遊郭で雪見酒を飲みながらの「雪見賦」を残している。

・・・ 1738＝36歳：

船出没始 1739＝37歳：ついに、宗春は隠居謹慎となり、側近も全て処分という事件に衝撃を受け、自らの生き方を考え始め、

・・・ 1741＝39歳：大番頭兼御用人となる。

のちに寺社奉行も兼務するなど、聡明であるが故に、職務には忠実で、堅実な出世コースを歩みながらも、自己の才能、出仕生活に不安を抱き、勤めと趣味を厳然と区別させながら、句作や文章執筆をするうち、おそらく「莊子」の養生思想に行きつき、とにかく要職を離れたいと、

徳川吉宗隠居1745＝43歳：

義経千本桜・1747＝45歳：

・・・ 1750＝48歳：まず願い通りに、大番頭兼寺社奉行の職を免じられ、

徳川吉宗没・1751＝49歳：

山脇東洋解剖1754＝52歳：

*普請組寄合を退いて致仕する際の「隠居弁」を見ても、とくに理由が無く、また年齢的に早いにもかかわらず、問題なく退隠。以後、前津の隠栖所{知雨亭}で、悠々自適の生活を送り、失敗の不安からも解放されて、脱俗の名作を次々ものして行く。

・・・ 1756＝54歳：

その俳諧活動は、必ずしも俳壇動向に敏感に反応するようなものではなかったが、「去来問答評」では森川許六を批し、「こだま草」で涼袋(建部綾足)批判するなど、指導的役割も果たして、

大岡忠光没・1760＝58歳：隠栖所に一緒にいた妻と男子が本宅に戻る時には、流石に平静が乱され、

・・・ 1761＝59歳：この年の詩「春日偶成二首」を見ると、自分の出処進退に迷いのなかったことが分かる。

・・・ 1763＝61歳：この年処女選集「蛙啼集」を出した同郷の加藤暁台を庇護支援して、中興期復古運動に参加。

錦絵始・・・ 1765＝63歳：

名は全国に響くようになり、江戸の大島蓼太・越前三国の遊女哥川・甲斐の上矢敵氷らが来訪するが、

田沼意次老中1772＝70歳：

大原騷動・・・ 1773＝71歳：それら、訪問客に、平静を乱される心情も詠んでいる。

解体新書・・・ 1774＝72歳：

雨月物語刊・1776＝74歳：詩「暮年口号」で、優れた友人が世を去るなか、自分が長生きしているのは無用者だからと達観。

源内獄中死・1779＝77歳：正月に賦した「新年戯作」を見ると、鈍であり静、平穩であることを理想としていたことが分かる。

・・・ 1781＝79歳：詩「新年書懷」で、後漢の隠遁者嚴光になぞらえ、優秀な官人から地味な隠棲に撤する意義を歌うなど、「莊子」の養生思想を指針に、おのれが無能であることを意識し続けて、後半生を全うし、

蘭学階梯・・・ 1783＝81歳：没した。

著述は多く、「羅葉集」「管見草」「美南無寿比」「的なし」などの俳諧関係書や漢詩文集「薙隠編」、そして狂歌集「行々子」などもある。

徳田武「江戸詩人伝」、「人づくり風土記(愛知)」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、日本の古典名著、